

中学校社会科教育における地理的・公民的分野間横断の授業構想

— 世界の諸地域「南アメリカ州」を題材に —

伊藤 渉太
教科領域コース

1. 研究の目的と意義

本稿は、中学校社会科地理的分野、世界の諸地域「南アメリカ州」での授業実践を踏まえ、同単元を題材に公民としての資質・能力の育成を目指した地理的分野及び公民的分野間の横断カリキュラムを提案し、今後の実践への示唆をしようとするものである。

筆者は本研究に先立ち、茨城大学教育学部附属中学校の第1学年4クラスを対象に、地理的分野、世界の諸地域「南アメリカ州」の小単元においてアマゾンの森林減少という地球的課題を題材に、持続可能な開発の視点から授業実践を行った。アマゾンの森林減少の要因を把握し、持続可能な開発について生徒が多面的・多角的に考察するうえで、各国の政治や経済などの問題が複雑に絡み、地理的な見方・考えだけでなく、現代社会の見方・考え方を活用することが必要不可欠であった。中学校社会科の目標に示される「公民としての資質・能力」を育成するとなれば、公民的分野における学習のなかでの育成が主に想定されるが、先行して学習される地理的分野、歴史的分野において「公民としての資質・能力の基礎」を学ぶことが求められている。よって、公民的分野の学習に先立ち、地理的分野において現代社会の諸課題を扱い「公民としての資質・能力の基礎」を涵養する学習を開発することに意義があるのではないかと考える。

2. 茨城大学教育学部附属中学校での地理的分野、世界の諸地域「南アメリカ州」の実践

(1) 授業の内容と構成

茨城大学教育学部附属中学校の第1学年、全4クラスを対象に授業実践を行った。本稿で担当したのは全3時間での指導計画のうち、2時間目の実践のみである。

単元を貫く問いとして、「南アメリカ州では、なぜ森林が減少しているのだろうか」という学習課題を設定した。単元を貫く課題に迫るため、南アメリカ州の自然環境や歴史、人々の生活、産業などについてまとめる学習から南アメリカ州について大観させる内容把握の時間が第1時である。第2時では、映像資料をもとに森林減少の要因が森林開発にあることを把握させ、森林開発のメリット、デメリットを整理する活動を行った後に、森林開発についての4人グループによる議論の場を設定した。森林減少とその要因である開発について生徒が多面的・多角的に考えることができるよう、議論の方法を工夫し、4つの立場によるロールプレイを取り入れた。ロールプレイ後に森林減少及びその要因である森林開発についての考えをまとめさせ、数名の発表から、「自然保護」と「開発」の両立の必要性を提示し、持続可能な開発についてのそれぞれの考えをまとめさせた。

(2) 実践の課題

本実践の課題として次の3点が挙げられる。第一に、生徒が単元課題を追究するうえで必要にな

る内容把握の時間を十分に確保できなかったことである。アマゾンの森林減少とその要因である森林開発には歴史的背景や様々な人々の生活、各国の政治や経済などの問題が複雑に絡んでおり、前提となる知識を習得する時間を設定することが必要であった。

第二に、ロールプレイでの議論の改善である。本実践では、授業者が作成した資料を配布し、それを基に議論を行わせたが、資料に記載されている内容をただ読むだけにとどまる生徒の姿が一定数見受けられた。生徒自身がそれぞれの主張を考える時間を設定することで、さらに生徒一人一人が担当する立場になりきって活発な議論を行うことができ、森林開発について多面的・多角的に考察することができるようになるのではないかと考える。

第三に、持続可能性の視点からの考察が十分ではなかったという点である。本単元は、全3時間での指導計画であったことや、地理的分野でのみの授業開発であったため、SDGs や持続可能な社会の内実についての内容把握が行えなかった。生徒の記述から「自然保護」と「経済成長」を両立させることの必要性について言及するものは見受けられたものの、実現可能性を踏まえた今後の施策等の記述が見受けられた生徒は小数であった。また、南アメリカ州と自分たちの生活を関連づける学習の場を設定しなかったことで、持続可能な社会について考察するうえで必要になる当事者意識を生徒に持たせることができなかった。

本実践で得た課題を踏まえ、同単元を題材に「公民としての資質・能力の基礎」の育成を目指した地理的分野及び公民的分野間の横断カリキュラムを提案し、今後の実践への示唆を以下に述べる。

3. 地理的分野及び公民的分野間横断の構想

授業開発にあたっては、公民的分野の学習に先立ち、「公民としての資質・能力の基礎」を涵養することを目指し、持続可能な社会づくりの視点から地理的分野において公民的分野との横断を図る。開発単元は茨城大学教育学部附属中学校での実践と同様、地理的分野、世界の諸地域「南アメリカ州」とし、対象とするのも同じく第1学年とする。単元目標は、茨城大学教育学部附属中学校での地理的分野での実践を踏まえつつ、公民的分野の要素を取り入れた(表1)。

表1 単元目標

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカの自然環境や多様な文化の特徴について、地形図や雨温図の資料、歴史的背景から理解することができる。 ・南アメリカ州では森林伐採が問題となっており、開発の影響を受けて耕地面積が増加する一方で森林が減少したり、持続可能な開発が求められていることを理解することができる。 	<p>南アメリカ州で見られる森林伐採の要因や影響を、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題として捉え、持続可能な開発の在り方と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	<p>課題の追究に向けて継続して学習に取り組み、学び方を見直しながら学習を進め、南アメリカ州に関する知識・技能を主体的に身に付けるとともに、単元課題について多面的・多角的に考えようとする。</p>

授業の構成として「内容把握」「課題追究」「課題解決」の3つの段階から授業を展開する。「内容把握」及び「課題追究」の段階において、これまでの地理的分野の授業で扱われてきたような対象地域の地理的事象の把握に加え、その地域の政治的特色や経済状況、国際関係の把握を行うことで、対象地域を多面的に捉えさせ社会認識を促す手がかりとする。

「内容把握」の段階では対象地域の基本的な自然環境や文化についての学習を行い、南アメリカ州に広がるアマゾンの熱帯雨林が減少している事実を生徒に捉えさせた後に学習課題Ⅰ「なぜアマゾンの熱帯雨林は減少しているのか」を提示する。

「課題追究」の段階では、アマゾンの熱帯雨林が減少している大きな要因は森林開発であることを学習し、「自然保護」と「開発」の対立構造が存在していることを把握するなかで「アマゾンの熱帯雨林の減少」という社会問題の構造化を図り、森林開発に対する生徒の評価の場を設定する。先に把握した南アメリカ州の地域的特色やロールプレイの資料作成及び議論を通して、その問題に関わる様々な立場の存在に気づかせる。立場については、対象地域内に存在する立場のみならず、社会問題にかかわる他地域に存在する立場についても取り扱い、地球規模の課題であることを捉えさせ、多角的な考察をより行いやすくする。

「課題解決」の段階は、公民的分野の内容「D 私たちの国際社会の諸課題」の視点から授業を展開する。学習課題Ⅱ「私たちの未来のために、アマゾンの森林開発の今後の在り方を考えよう。」を提示し、これまでに学習したことをもとに、持続可能な社会の実現に向けて当事者意識を持ち、南アメリカ州の課題解決に向けて持続可能な開発と関連づけた提言を構築することがねらいである。持続可能な社会の形成に向けた指標となるSDGsの考えに触れながら、個人で考察させた後にグループで意見をまとめ、発表を行う形態をとる（表2）。

表2 単元計画及び学習活動

段階	学習活動	教師の働きかけ	
内容把握	○南アメリカ州の自然、歴史、文化などの視点から南アメリカ州について大観する。	○南アメリカ州の豊かな自然を写真や映像資料などから読み取らせる。 ○スペインやポルトガルの植民地であった歴史的背景から、人種・民族構成や文化の特徴を捉えさせる。	
	○南アメリカの地域的特色をもとに、単元課題Ⅰを設定する。	○アマゾン川流域の熱帯雨林減少の様子を衛星写真から読み取らせ、世界の森林減少の様子から、南アメリカ州の解決すべき課題が森林減少であることを捉えさせる。 ○森林減少と地球温暖化の関係やアマゾンに生息する動植物の希少性について触れ、単元課題Ⅰを提示する。	
【課題Ⅰ】 なぜアマゾンの熱帯雨林は減少しているのか。			
課題追究	○アマゾンの開発について調べ、熱帯林減少の理由をまとめる。 ・栽培する作物や鉱産資源など輸出品に着目して調べ、南アメリカ州の産業の変化を捉える。	○熱帯雨林の伐採による大農場や鉱山の開発が行われていることを捉えさせる。 ・グラフから輸出品目の変化や輸出額の増加について読み取らせる。 ・ブラジルがコーヒー豆の輸出に依存する経済から脱却を目指し、開発に取り組んだことに気付かせる。	
	○アマゾンの熱帯雨林の開発がもたらす良い面・悪い面を整理する。	○これまでの学習を振り返り、良い面・悪い面を表にまとめさせる。	
	【森林開発に対する生徒の評価】 開発による森林減少についてどう考えるか。		
	○アマゾンの熱帯雨林の開発についてどう考えるか、自分の考えをまとめる。 ○森林開発に対する捉え方の違いを把握する。 ○ロールプレイの準備を行う。 A. ブラジル政府の役人 B. アマゾンの先住民 C. 農業従事者 D. 日本政府の役人	○森林開発に賛成か反対か問いかけ、自分の考えをまとめさせる。 ○資料からブラジルに暮らす人々の姿を読み取らせ、立場による捉え方の違いに気付かせる。 ○ロールプレイの4つの立場の概要を提示する。 ○どの立場でロールプレイを行うのか、配役を選択させ、立場の主張を構想させる。	
○学習した内容や提示された様々な資料を活用し、ロールプレイで担当する立場の主張を作成する。 ○ロールプレイを行い、様々な立場からアマゾンの熱帯雨林について考える。 ○ロールプレイでの議論を通して、感じたことや考えたことをグループで話し合う。	○ロールプレイングにおいて自分の立場について意見がまとめられない生徒には机間指導の際にヒントカードを配布する。 ○根拠となる資料を明確にしながらか議論を行わせ、相手にわかりやすく伝えるようにさせる。 ○ロールプレイを終えて、率直な感想や自分の考えを協議できるように、ロールプレイと同グループで話し合いの場を設ける。		
【森林開発に対する生徒の再評価】 開発による森林減少についてどう考えるか。			
	○アマゾンの熱帯雨林の減少は自分たちの生活にどのような影響を及ぼすのか考える。 ○アマゾンの熱帯雨林の開発についてどう考えるか、自分の考えをまとめる。 ○開発による森林減少についてどう考えるの	○生徒がアマゾンの問題を地球規模の問題として捉え、自分事として考えられるように資料の提示や問いかけを行う。 ○「環境保護」と「開発」を軸で表し可視化させ、自分の意見がどこに当てはまるのかを考えさせ、意見をまとめさせる。 ○「環境保護」と「開発」の軸を黒板で示し、生徒にネームプレートを貼らせ、	

	か意見を共有し、考えを発表する。	全体の意見を共有できるようにする。 ○発表の際には、ネームプレートをもとに多様な意見が出るように指名をしたり、最初の評価から変容があった生徒を指名したりするようにする。 ○「環境保護」と「開発」の軸をもとにベン図を作成し、共通部分から持続可能な開発という考え方を提示する。
課題解決	○これまでの学習活動をもとに単元課題Ⅱを提示する。	○これまでの学習活動を想起させる。
	【課題Ⅱ】 私たちの未来のために、アマゾンの森林開発の今後の在り方を考えよう。	
	○南アメリカ州の課題解決に向けて、持続可能な開発の視点から個人で考察した後に、グループで意見を共有する。	○SDGs の考えに触れ、今後継続して一人一人が考え続けていく問題であることを掴ませる。 ○ロールプレイでの議論を振り返らせ、環境保護と経済発展の視点から、持続可能な開発に着目させる。 ○持続可能な社会の形成に向けて、自分たちにもできることはないか考えさせる。
○南アメリカ州の課題解決に向けて、持続可能な開発の視点から、グループごとに話し合い、全体で発表を行う。 ○学習の振り返りを行う。	○グループの意見をホワイトボードに書かせ、黒板に掲示し、全体で意見を共有し比較できるようにする。 ○これまでの学習と班や全体で共有したことをもとに、自分なりの考えをまとめさせる。 ○各州にも似たような課題が見いだせないか検討させる。	

4. 今後の展望

本稿では、中学校社会科地理的分野、世界の諸地域「南アメリカ州」での授業実践を踏まえ、同単元を題材に公民としての資質・能力の育成を目指した地理的分野及び公民的分野間の横断カリキュラムを提案した。公民的分野の学習に先立ち、地理的分野において公民的分野との横断を図ることで「公民としての資質・能力の基礎」を涵養することができると思う。本授業構想を実際に学校現場で実践し、検証することが自身の今後の課題である。

しかし、現状として学校現場における社会科教育は各分野間の横断や連携は図られることが少なく、分断状態となっているケースがめずらしくない。学校現場において本稿で提案したような分野間横断の授業実践を行うためには、各分野を担当する教員同士が連携を図り、既存の指導計画を再構築することが必要不可欠になるだろう。また、本稿では地理的分野、世界の諸地域「南アメリカ州」の単元における公民的分野との横断の授業開発のみにとどまっているため、別単元での授業開発や、歴史的分野との横断も視野に今後も研究を進めていく必要がある。加えて、実践する学校に在籍する生徒の実態を適切に把握したうえで、分野間の横断を吟味することが重要である。目の前の生徒の実態に合わせつつ、理想とする授業を展開するための方策を今後も考え続けていきたい。

5. 主要参考文献

- ・文部科学省編（2018）『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社。
- ・春名大誠・山内敏男（2021）「地理的分野と公民的分野の『意図的接続』を図る中学校社会科授業開発と改善－『アマゾンの森林火災問題を解決しよう』を事例に－」兵庫教育大学学校教育学研究、第34巻 p. 139-149.
- ・伊藤裕康（2018）「中学校社会科における地歴連携授業の開発」香川大学教育学部研究報告 第I部 p. 65-72.
- ・岡野英輝・木村勝彦（2022）「中学校社会科地理的分野におけるSDGsを活用したESDの授業構想－“切実な構想力”の育成をめざした『世界の諸地域』の授業実践を通して－」茨城大学教育学部紀要（教育科学）71号 p. 13-31.